

2011

「東日本大震災 実像と今後への備え」

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。地震発生メカニズム、津波が巨大化した仕組み、津波の襲来を受けて人々の行動から、被害拡大した原因を探る。さらに今後の巨大災害に向き合う姿勢、対策のあり方を探る。

■日時：平成23年12月14日(水) 16時～19時（開場 15：30）

■場所：仙台市福祉プラザ ふれあいホール

■主催：東北大学・読売新聞

■プログラム：

【挨拶】 16：00～16：05 東北大学理事、読売新聞総局長

【講演】 16：05～17：00

講演者：松澤 暢 教授

演 題：「地震発生メカニズム」

概 要：なぜマグニチュード9もの地震が発生したのか。これまで見落とされてきた理由、そして今回の震災の分析から見えてきた新しい地震発生モデルを紹介する。M9を震源域周辺での観測結果も踏まえる。

[休憩：5分]

17：05～18：00

講演者：今村 文彦 教授

演 題：「巨大津波の実態と今後の減災」

概 要：津波発生から浸水、住宅地を破壊するまでの過程をCGも活用しながら追う。建物被害をもたらす津波の威力の分析成果から、津波を防ぐ対策やその効果を探る。

[休憩：5分]

17：05～18：00

講演者：邑本 俊亮 教授

演 題：「そのとき住民は」

概 要：地震発生から津波襲来まで1時間以上ありながら、住民はすぐに避難を始めなかった実情がある。巨大災害に見舞われた時に直面したときにとる住民行動の傾向と、それに対応できる対策を考える。